



FARONICS
ANTI-EXECUTABLE™
STANDARD

実行禁止ファイルから 完全な保護

ユーザーガイド



FARONICS™
Intelligent Solutions for ABSOLUTE Control

www.faronics.com



最新更新日：2026年

©1999 2026 Faronics Corporation. All rights reserved. Faronics、Deep Freeze、Deep Freeze Cloud、Faronics Deploy、Faronics Core Console、Faronics Anti-Executable、Faronics Anti-Virus、Faronics Device Filter、Faronics Data Igloo、Faronics Power Save、Faronics Insight、Faronics System Profiler、WINSelect は Faronics Corporation の商標および / または登録商標です。その他すべての会社名および製品名はそれぞれの所有者の商標です。



目次

序文	5
重要な情報	6
Faronicsについて	6
製品マニュアル	6
テクニカルサポート	7
お問い合わせ	7
用語の定義	8
はじめに	10
Anti-Executable概要	11
Anti-Executableについて	11
Anti-Executableのエディションについて	11
システム要件	12
Anti-Executableのライセンス	13
Anti-Executableのインストール	15
インストール概要	16
Anti-Executable Standardのインストール	17
Anti-Executable Standardへのアクセス	20
Anti-Executableの使用	21
概要	22
Anti-Executableの設定	23
ステータスタブ	24
製品情報の確認	24
Anti-Executable保護の有効化	25
Anti-ExecutableのMaintenance Mode	25
実行管理リストタブ	26
ユーザータブ	27
Anti-Executable管理者または信頼ユーザーの追加	27
Anti-Executable管理者または信頼ユーザーの削除	29
Anti-Executableパスワードの有効化	29
[一時実行モード]タブ	30
一時実行モードの有効化または無効化	31
セットアップタブ	32
Anti-Executableでのイベントログの設定	32
DLL実行のモニタ	32
JAR実行のモニタ	33
VBScript実行のモニタ	33
PowerShellスクリプト実行のモニタ	33
Anti-Executableのステルス機能	33
互換性オプション	33
アラートのカスタマイズ	34
レポートタブ	36
Anti-Executableのアンインストール	37
Anti-Executable Standardのアンインストール	38





序文

Faronics Anti-Executable は、許可された実行可能ファイルのみをワークステーションやサーバーで実行できるようにすることにより、エンドポイントでのセキュリティを確実にするソリューションです。

トピック

[重要な情報](#)

[テクニカルサポート](#)

[用語の定義](#)



重要な情報

このセクションには Anti-Executable についての重要な情報を記載しています。

Faronics について

Faronics は、マルチユーザーコンピューティング環境の管理、簡素化、安全保護を支援するソフトウェアを提供します。当社の製品は、ワークステーションの 100% の可用性を保証し、IT 担当者を面倒な技術サポートやソフトウェアの問題から解放してきました。学校施設をはじめ、医療機関、図書館、政府組織、または法人企業で Faronics の顧客中心の取り組みによるパワフルなテクノロジー改革を有効にご使用いただいています。

製品マニュアル

Faronics Anti-Executable のテクニカルガイドは、以下のマニュアルで構成されています：

- Faronics Anti-Executable ユーザーガイド - このマニュアルでは製品の使用方法を説明します。
- Faronics Anti-Executable リリースノート - このドキュメントには新しい機能、既知の問題、解決された問題が記載されています。
- Faronics Anti-Executable の機能説明書 - この説明書には最新の機能が記載されています。
- Faronics Anti-Executable readme.txt - このドキュメントではインストールプロセスを説明します。



テクニカルサポート

当社では、使いやすく、問題のないソフトウェアを設計するためにあらゆる努力を重ねています。万が一、問題が発生した場合は、テクニカルサポートまでご連絡ください。

Web:support.faronics.com

電子メール :support@faronics.com

フリーダイヤル (北米):1-800-943-6422

電話番号 : 1-604-637-3333

営業時間 : 月曜日 ~ 金曜日 午前 7 時から午後 5 時 (太平洋標準時刻)

お問い合わせ

本社 :

Faronics Corporation

609 Granville St., Suite 1400

Vancouver, BC V7Y 1G5, Canada

Web:www.faronics.com

電子メール :sales@faronics.com

電話番号 :800-943-6422 または 604-637-3333

ファックス :800-943-6488 または 604-637-8188

営業時間 : 月曜日 ~ 金曜日 午前 7 時から午後 5 時 (太平洋標準時刻)

Faronics Technologies USA Inc.

5506 Sunol Blvd, Suite 202

Pleasanton, CA, 94566, USA

Faronics EMEA

8, The Courtyard, Eastern Road

Bracknell, Berkshire

RG12 2XB, United Kingdom

Faronics Pte Ltd

160 Robinson Road

#05-05 SBF Center

Singapore 068914



用語の定義

用語	定義
アラート	実行禁止ファイルを起動しようとする時、表示される通知ダイアログです。Anti-Executable の管理者は、アラートのメッセージと画像を指定できます。
Anti-Executable 管理者	Anti-Executable 管理者は、すべての Anti-Executable 設定オプションにアクセスできます。Anti-Executable ユーザーの管理、Anti-Executable 保護の有効化または無効化の設定、Anti-Executable のアンインストールやアップグレードを行うことができます。
Anti-Executable 信頼ユーザー	Anti-Executable の保護を「有効」または「無効」に設定できません。Anti-Executable をアンインストールしたりアップグレードすることはできません。
実行可能ファイル	オペレーティングシステムによって実行できるすべてのファイル。Anti-Executable によって管理される実行可能ファイルで、.scr、.jar、.bat、.com、または .exe という拡張子が付いているもの。dll という拡張子が付いたダイナミックリンクライブラリは、[設定] タブで設定されていれば管理されます。
実行管理リスト	実行管理リストは、Anti-Executable がファイルまたは発行者を管理する方法を定義します。この実行管理リストは、ファイルを「許可」または「ブロック」するかどうかを定義します。
外部ユーザー	Anti-Executable 管理者ユーザーまたは Anti-Executable 信頼ユーザーのいずれでもないその他すべてのユーザー。 外部ユーザーは、実行許可ファイルのみを実行でき、Anti-Executable の構成を操作することはできません。オペレーティングシステムによって指定されたユーザー権限に関係なく、この制限は適用されます。
JAR	JAR (Java ARchive) は、多数の Java クラスファイル、関連するメタデータとリソース (テキスト、画像など) を 1 つのファイルにまとめたアーカイブファイル形式の 1 つで、Java プラットフォームでのアプリケーションソフトウェアまたはライブラリの配布に使用されます。
Maintenance Mode	Maintenance Mode になっているときに、追加または修正された新しい実行可能ファイルは、自動的にローカル管理リストに追加されます。



用語	定義
保護	[有効化]に設定すると、一括管理リストとローカル管理リストに基づいて、Anti-Executableによりワークステーションが保護されていることをこの設定が示します。[無効化]に設定すると、あらゆる実行可能ファイルをワークステーション上で実行することができます。
発行者	発行者とはファイルの作成者を指します。発行者はデジタル署名でファイルを認証します。Anti-Executableでは、発行者の名前、製品のファイル名、バージョンの詳細を使って、発行者が作成したファイルを識別します。
ステルスモード	ステルスモードは、システム上のAnti-Executableの存在を視覚的に示すアイコンなどを管理する複数のオプションです。ステルスモードでは、管理者は、WindowsのシステムトレイでAnti-Executableのアイコンを非表示にしたり、アラートが表示されないようにするオプションを利用できます。
一時実行モード	一時実行モードにより、指定期間中、Anti-Executableからの操作なしで、ユーザーは実行可能ファイルを実行できます。この期間中は、制限を受けずに、実行可能ファイルを実行することができます。ブロックされた実行可能ファイルは、実行が許可されません。
信頼実行可能ファイル	信頼実行可能ファイルでは、実行禁止になっているその他の実行可能ファイルを実行することができます。
実行禁止ファイル	実行禁止ファイルは、実行が許可されていないファイルです。



はじめに

Anti-Executable は、許可されたアプリケーションのみをコンピュータまたはサーバー上で実行できるようにすることによって、エンドポイントの完全な生産性を保証します。プログラムが有害であるか、無許可であるか、または不必要であるかに関わらず、無許可プログラムの実行は常にブロックされます。

トピック

[Anti-Executable 概要](#)

[システム要件](#)

[Anti-Executable のライセンス](#)



Anti-Executable 概要

Anti-Executable について

Faronics は、マルチユーザーコンピューティング環境の管理、簡素化、安全保護を支援するソフトウェアを提供します。当社の製品は、ワークステーションの 100% の可用性を保証し、IT 担当者を面倒な技術サポートやソフトウェアの問題から解放してきました。学校施設をはじめ、医療機関、図書館、政府組織、または法人企業で Faronics の顧客中心の取り組みによるパワフルなテクノロジー改革を有効にご使用いただいています。

Anti-Executable のエディションについて

Faronics Anti-Executable には 4 つの異なるエディションがあります。サーバーまたはワークステーションであろうと、スタンドアロンまたはネットワークの一部であろうと、Anti-Executable は必要とされる保護を提供します。ニーズに最も適した Anti-Executable のエディションを選択してください。

エディション	保護のために使用する Anti-Executable
Standard	非サーバーオペレーティングシステムが稼働している 1 台のスタンドアロンコンピュータ
Server Standard	サーバーオペレーティングシステムが稼働している 1 台のスタンドアロンコンピュータ
Enterprise	非サーバーオペレーティングシステムが稼働している複数のコンピュータ
Server Enterprise	サーバーオペレーティングシステムが稼働している複数のコンピュータ



システム要件

Anti-Executable は、以下のオペレーティングシステムにインストールできます。

- Windows 7、Windows 8.1、Windows 10 バージョン 22H2 まで、Windows 11 バージョン 22H2 までの 32 ビット版および 64 ビット版
- Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012、Windows Server 2016、Windows Server 2019、Windows Server 2022



Anti-Executable のライセンス

Anti-Executable には完全版と評価版があります。評価版は無料で Faronics のウェブサイト (www.faronics.com) からダウンロードできます。評価版をインストールすると 30 日間使用できます。評価版の有効期限が切れると、コンピュータは保護されません。アンインストールするか、完全版にアップグレードする必要があります。完全版でコンピュータを保護するには、有効なライセンスキーが必要です。



Anti-Executable サーバー版は、非サーバーオペレーティングシステムにインストールすることはできません。Anti-Executable サーバー版のライセンスキーは、非サーバー版で使用することはできません。

Anti-Executable 非サーバー版は、サーバーオペレーティングシステムにインストールすることはできません。Anti-Executable 非サーバー版のライセンスキーは、サーバー版で使用することはできません。





Anti-Executable のインストール

この章では Anti-Executable のインストールプロセスについて説明します。

トピック

[インストール概要](#)

[Anti-Executable Standard のインストール](#)

[Anti-Executable Standard へのアクセス](#)



インストール概要

Anti-Executable は、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012、Windows Server 2016、Windows Server 2019、Windows Server 2022、32 ビット版および 64 ビット版の Windows 7、Windows 8.1、Windows 10 バージョン 22H2 まで、Windows 11 バージョン 22H2 までにインストールできます。

システム	インストールファイル
Windows (非サーバー) (32 ビット)	AESD_32-bit.msi
Windows (非サーバ) (64 ビット)	AESD_64-bit.msi
Windows Server (32 ビット)	AESrvStd_32-bit.msi
Windows Server (64 ビット)	AESrvStd_64-bit.msi



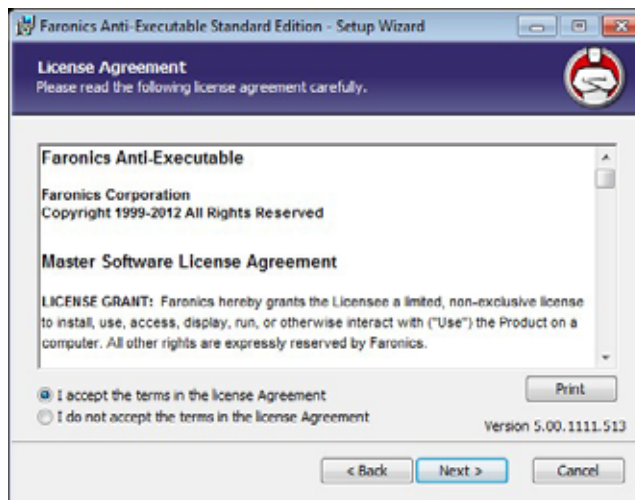
Anti-Executable Standard のインストール

Anti-Executable Standard をインストールするには、以下の手順を実行します。

1. .msi ファイルをダブルクリックして、インストールプロセスを開始します。[次へ] をクリックして、続行します。



2. 使用許諾契約書に同意します。[次へ] をクリックして、続行します。





3. ユーザー名と組織を入力します。[次へ]をクリックして、続行します。

Faronics Anti-Executable Standard Edition Setup

Customer Information
Please enter your information.

User Name:
zore

Organization:
[Empty field]

License Key:
[Empty field]

Use Evaluation (30 days)

Version 5.00.1111.513

< Back Next > Cancel

4. [インストール先フォルダ]を指定します。デフォルトの場所は、C:\Program Files\Faronics\AEです。[次へ]をクリックして、続行します。

Faronics Anti-Executable Standard Edition - Setup Wizard

Destination Folder
Select a folder where the application will be installed.

Install Faronics Anti-Executable Standard Edition to:

C:\Program Files\Faronics\AE\

Browse...

Version 5.00.1111.513

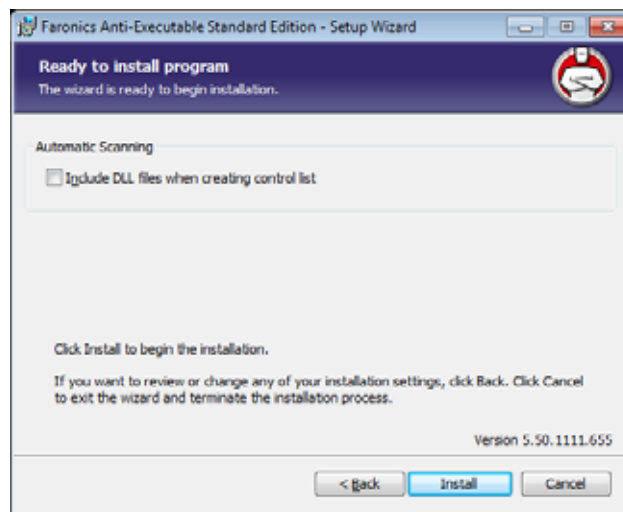
< Back Next > Cancel



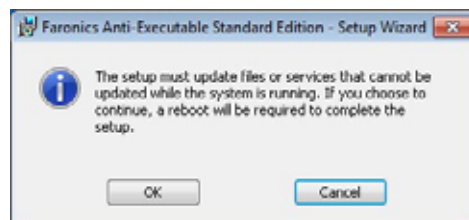
5. AE Administrator のユーザーパスワードと AE 信頼ユーザーのパスワードを指定します。[次へ] をクリックして、続行します。



6. 以下のオプションを選択して、[インストール] をクリックします。
Anti-Executable によりコンピュータがスキャンされ、すべてのファイルと発行者のリストを含む管理リストが作成されます。
> 管理リストの作成時に DLL ファイルを含める - DLL を含める場合は、このオプションを選択します。



7. [OK] をクリックして、コンピュータを再起動します。後でコンピュータを再起動するには、[キャンセル] をクリックします。



8. [完了] をクリックして、インストールを終了します。



Anti-Executable Standard へのアクセス

Windows システムトレイの Anti-Executable アイコンをダブルクリックすると、ワークステーション上で直接 Anti-Executable にアクセスできます。また、Ctrl+Alt+Shift+F10 ホットキーを使用することもできます。

管理者は、[ステータス]、[実行管理リスト]、[ユーザー] の各タブにアクセスできます。信頼ユーザーは、[ステータス] タブと [実行管理リスト] タブのみにアクセスできます。

外部ユーザーは Anti-Executable にアクセスできません。パスワードが設定されている場合、Anti-Executable 管理者および信頼ユーザーが Anti-Executable にアクセスするには、適切なパスワードを入力する必要があります。



Anti-Executable の使用

この章では Anti-Executable の構成と使用手順について説明します。

トピック

[概要](#)

[ステータスタブ](#)

[実行管理リストタブ](#)

[ユーザータブ](#)

[\[一時実行モード\] タブ](#)

[セットアップタブ](#)

[レポートタブ](#)



概要

Anti-Executable は、保護強化のために複数の管理リストを提供します。以下のコンポーネントがあります。

- 実行管理リストは、Anti-Executable がファイルまたは発行者を管理する方法を定義します。この実行管理リストは、ファイルまたは発行者を「許可」または「ブロック」するかどうかを定義します。

Anti-Executable は、一般的に知られているパブリッシャのリストで事前に作成されています。このリストは必要に応じて更新されます。

- ファイルと発行者のローカルリスト (管理リスト) - Anti-Executable をワークステーションに初めてインストールすると、Anti-Executable によりワークステーションがスキャンされ、許可されたすべてのファイルと発行者のリストが作成されます。



Anti-Executable の設定

Anti-Executable には以下のタブがあります。

- ステータス
- 実行管理リスト
- ユーザー
- 一時実行モード
- セットアップ



ステータスタブ

[ステータス] タブにより、Anti-Executable 管理者と信頼ユーザーは、さまざまな設定、保護の有効化、無効化、Maintenance Mode の設定などが行えます。



製品情報の確認

[バージョン情報] ペインには、インストールされている Anti-Executable のバージョンが表示されます。新しいバージョンがある場合、「新規バージョンが利用可能です」と表示されます。詳細は、[更新] をクリックしてください。

Anti-Executable の評価版がインストールされている場合は、[有効期限] フィールドには、Anti-Executable の有効期限が切れる日付が表示されます。Anti-Executable では、Windows のシステムトレイに現在のライセンス状況について表示されます。

評価期間の期限が切れると、Anti-Executable でコンピュータが保護されません。Anti-Executable の有効期限が切れると、以下のアイコンが表示されます。



Anti-Executable の評価版を完全版に変換するためには、[編集] をクリックし、[ライセンスキー] フィールドに有効なライセンスキーを入力します。ライセンスキーは Faronics または Faronics パートナーに連絡して入手することができます。



Anti-Executable 保護の有効化

インストール後に、デフォルトで Anti-Executable が有効になります。

保護が無効の場合に、ワークステーション上で Anti-Executable の保護を有効にするように通知させるには、[通知間隔] チェックボックスを使用します。

Anti-Executable の Maintenance Mode

Maintenance Mode で Anti-Executable を実行するには、[Maintenance Mode] を選択して、[適用] をクリックします。Maintenance Mode になっているときに、追加または修正された新しい実行可能ファイルは、自動的に実行管理リストに追加されます。Maintenance Mode を終了するには、[有効化] または [無効化] を選択します。

[有効化] を選択すると、Anti-Executable で変更が記録されます。[無効化] を選択すると、Anti-Executable で変更は記録されません。



コンピュータが Maintenance Mode で実行されている間は、Windows Updates のために十分な時間を取る必要があります。

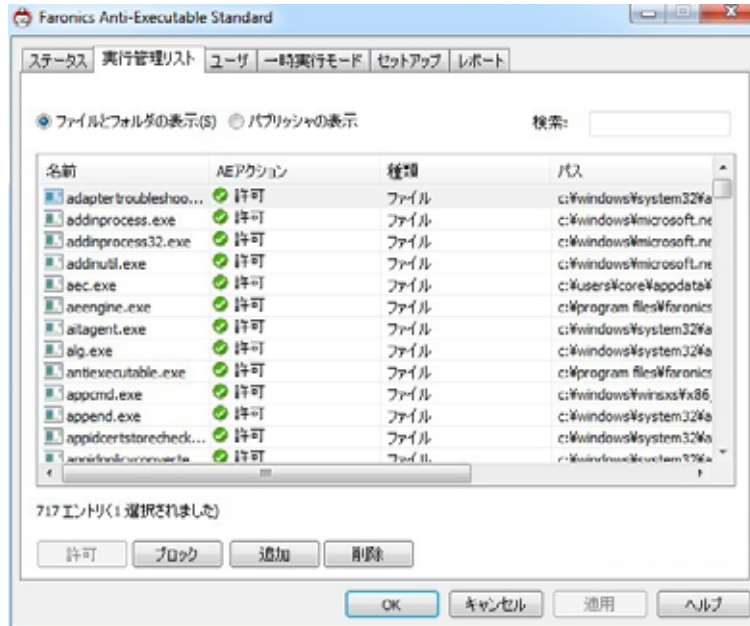


コンピュータが Maintenance Mode で実行されていて、保護が無効になっている場合、Maintenance Mode の間にワークステーションに対して行われた変更は実行管理リストに追加されません。



実行管理リストタブ

[実行管理リスト] タブにより、一括管理リストにある項目を許可するかブロックするかを指定できます。



Anti-Executable の動作を指定するには、以下の手順を実行します。

1. [ファイルとフォルダの表示] または [発行者の表示] を選択します。
2. [ファイルとフォルダの表示] を選択すると、以下の列が表示されます。
 - > 名前
 - > AE アクション
 - > ソース
 - > 信頼
 - > 種類
 - > パス
 - > 追加データ
 - > コメント
3. ファイルまたはフォルダを一括管理リストおよび実行管理リストに追加するには、[追加] をクリックします。実行管理リストから削除するには、項目を選択して、[削除] をクリックします。項目を選択して、[許可] または [ブロック] をクリックします。
4. [適用] をクリックします。[OK] をクリックします。



ユーザータブ

Anti-Executable では、ユーザーが利用可能な機能を決定するために、Windows のユーザーアカウントが使用されます。以下の 2 種類の Anti-Executable ユーザーがあります。

- 管理者ユーザー - 一括管理リスト、ローカル管理リスト、実行管理リスト、ユーザー、およびセットアップの管理と Anti-Executable のアンインストールができます。
- 信頼ユーザー - Anti-Executable と実行管理リストを設定できます。Anti-Executable のアンインストールは禁止されています。ユーザーまたはセットアップを管理することはできません。

デフォルトでは、Anti-Executable のインストールを行う Windows ユーザーアカウントが、最初の Anti-Executable 管理者ユーザーになります。その後、この管理者ユーザーは、既存の Windows ユーザーを、Anti-Executable に追加することができます。

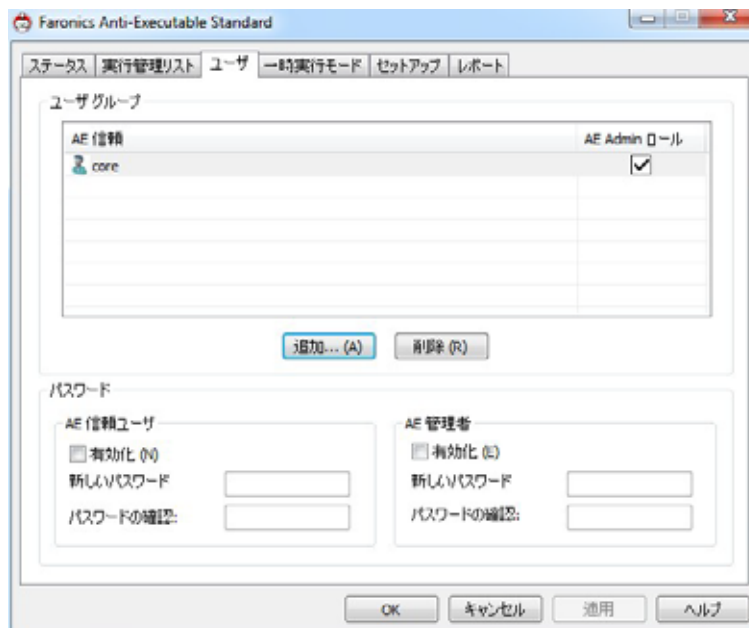
Anti-Executable が有効になっているときに、Anti-Executable 管理者または信頼ユーザーが無許可のアプリケーションを開こうとすると、[アラート] ダイアログが表示されます。

Anti-Executable 管理者または信頼ユーザーの追加

すべての Anti-Executable ユーザーは、既存の Windows ユーザーアカウントです。ただし、すべての Windows ユーザーアカウントが自動的に管理者または信頼ユーザーになるわけではありません。管理者または信頼ユーザーではない Windows ユーザーアカウントは外部ユーザーです。

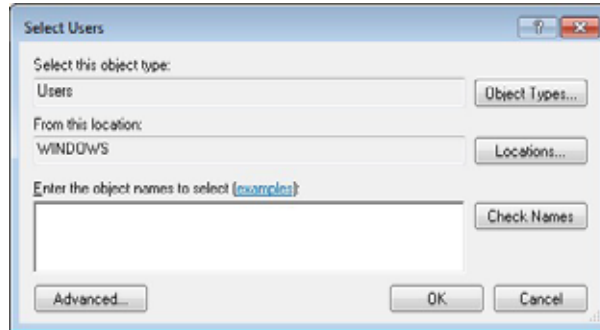
Anti-Executable にユーザーを追加するには、以下の手順を実行します。

1. Anti-Executable ウィンドウの上部の [ユーザー] タブをクリックします。

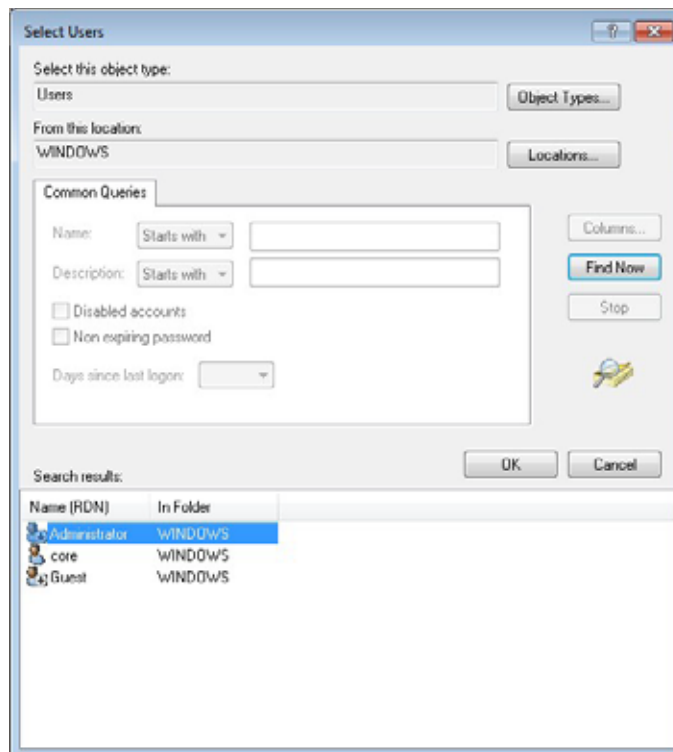




2. [追加] をクリックして、新規ユーザーを追加します。提示されたリストから、ユーザーアイコンを選択します。



3. [詳細] > [検索] をクリックして、利用可能なユーザーのリストを表示します。Anti-Executable 管理者は、ドメインユーザー（またはグループ）とローカルユーザー（またはグループ）を追加できます。Anti-Executable のリストにユーザーを追加するには、ユーザーまたはグループをクリックして、[OK] をクリックします。



4. デフォルトでは、追加された各ユーザーは Anti-Executable 信頼ユーザーになります。新規ユーザーに管理者権限を与える場合、[Anti-Executable Admin ロール] チェックボックスを選択して、Anti-Executable 管理者として指定します。

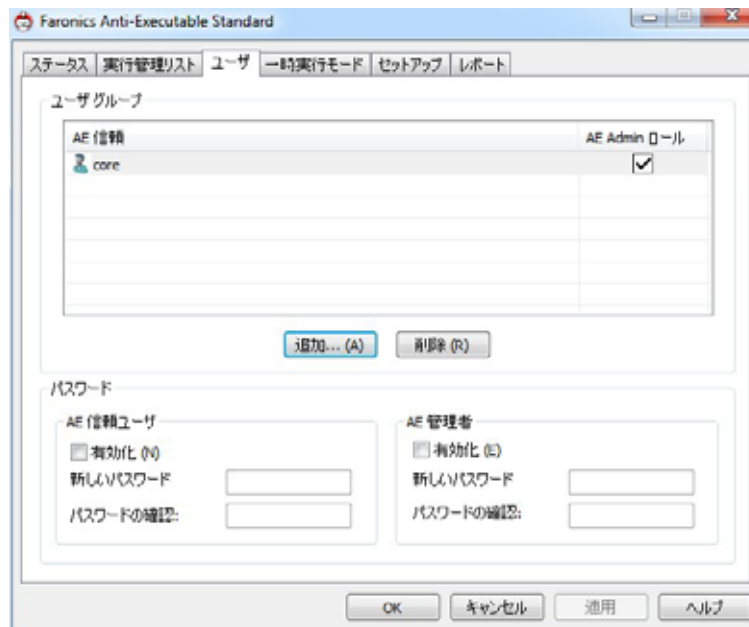


Anti-Executable 管理者または信頼ユーザーの削除

[ユーザー] タブをクリックし、削除するユーザーを選択します。[削除] をクリックします。これにより Windows ユーザーアカウントは削除されません。これでユーザーは外部ユーザーになります。

Anti-Executable パスワードの有効化

保護の強化として、Anti-Executable では、各ユーザーグループにパスワードを付加することができます。パスワードは関連づけられたグループのメンバーのみに適用されます。パスワードを指定するには、[有効化] チェックボックスが選択されていることを確認し、[新しいパスワード] フィールドと [パスワードの確認] フィールドにパスワードを入力します。変更を保存するには、[適用] をクリックします。

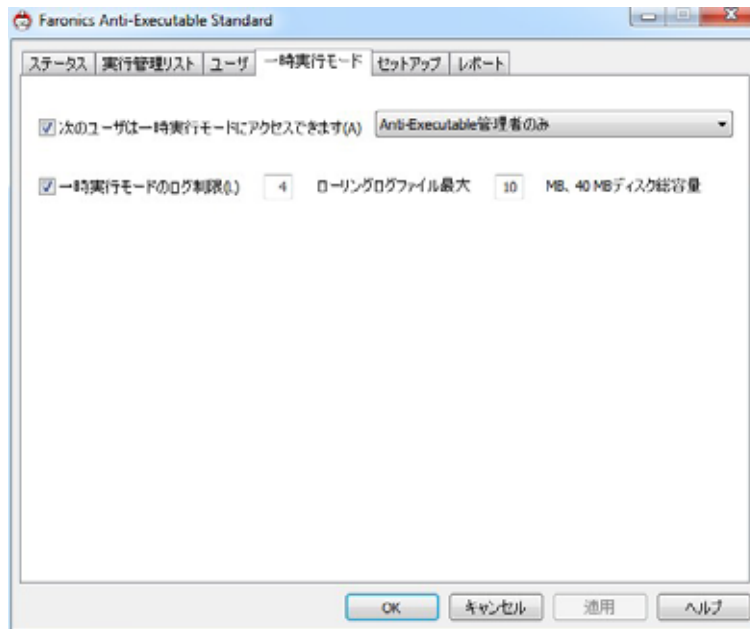




[一時実行モード] タブ

一時実行モードにより、指定期間中、Anti-Executable からの操作なしで、ユーザーは実行可能ファイルを実行できます。この期間中は、制限を受けずに、実行可能ファイルを実行することができます。一時実行モードの期間が終了すると、Anti-Executable が有効になります。[一時実行モード] タブにポリシーの情報が表示されます。[一時実行モード] タブの設定はワークステーションでは変更できません。

以下のオプションが一時実行モードで使用できます。



- 次のユーザーは一時実行モードにアクセスできます - このチェックボックスを選択すると、特定のユーザーが各自のシステムで一時実行モードを有効にできます。[すべてのユーザー]、[Anti-Executable ユーザー]、[Anti-Executable 管理者のみ] を選択します。
- 一時実行モードのログ制限 - このチェックボックスを選択すると、一時実行モード中にログファイルが作成されます。
 - > ログファイルの数 - ログファイルの数を指定します (最大 10 ファイルまで)。ログ情報はファイルに連続的に保存されます。たとえば、A、B、C という 3 つのファイルがある場合、Faronics Anti-Executable では最初にファイル A にエラーログが書き込まれます。ファイル A が一杯になると、ファイル B に書き込み、最後にファイル C に書き込みます。ファイル C が一杯になると、ファイル A のデータが消去され、新しいログデータがそれに書き込まれます。
 - > ファイルのサイズ - 各ファイルのサイズを MB で選択します。それぞれが 10 MB の 10 のログファイル (合計 100 MB) を作成することができます。



一時実行モードの有効化または無効化

- 一時実行モードの有効化：システムトレイで Anti-Executable アイコンを右クリックし、[一時実行モード]>[x分](最長60分、24時間、または7日のいずれかを選択)の順に選択します。
- 一時実行モードの無効化：システムトレイで Anti-Executable アイコンを右クリックし、[一時実行モード]>[無効]の順に選択します。

[一時実行モード]が有効になると、ワークステーションのシステムトレイに以下のアイコンが表示されます。



一時実行モードが終了する3分前にメッセージがワークステーションに表示されます。

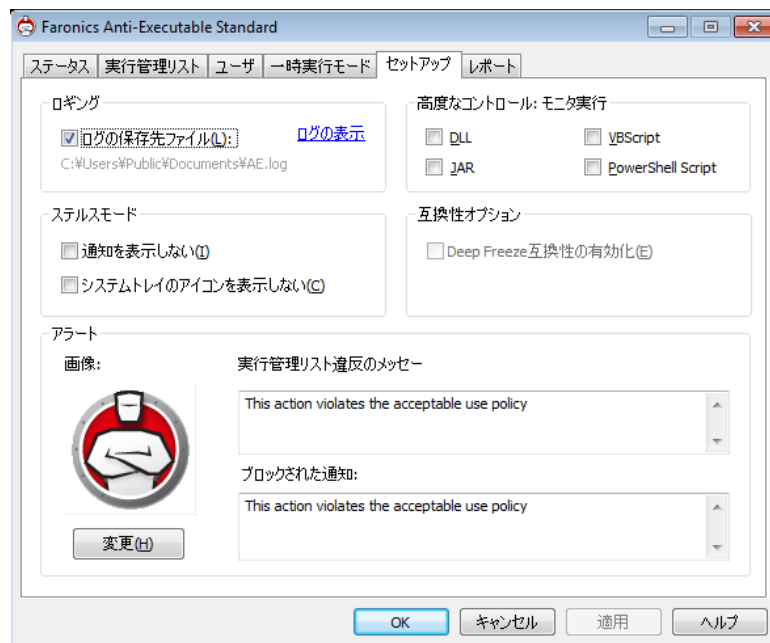


一時実行モード中は、Windowsの自動更新は無効になります。



セットアップタブ

Anti-Executable 管理者は、さまざまなユーザーのアクションをログに記録するためにロギングの設定、ステルスモードのさまざまな設定の適用、アラートの設定、互換性の有効化などができます。



Anti-Executable でのイベントログの設定

ログファイルにイベントのログを書き込むには、[ファイルへのログの書き込み]を選択します。ログファイルは All Users/Documents ディレクトリにあります。

DLL 実行のモニタ

DLL をモニタするには、[DLL 実行のモニタ]チェックボックスを選択します。このチェックボックスが選択されていないと、実行管理リストに DLL が追加されてもモニタされません。



[DLL 実行のモニタ]チェックボックスの選択を解除すると、「実行管理リストのすべての DLL エントリを削除しますか?」というメッセージが表示されます。すべての DLL エントリを削除するには、[はい]をクリックし、エントリを維持するには、[いいえ]をクリックします。



JAR 実行のモニタ

DLL をモニタするには、[DLL 実行のモニタ] チェックボックスを選択します。このチェックボックスが選択されていないと、実行管理リストに DLL が追加されてもモニタされません。

VBScript 実行のモニタ

-VBScript ファイルをモニタするには、このオプションを選択します。このチェックボックスが選択されていないと、管理リストに VBScript ファイルが追加されてもモニタされません。

PowerShell スクリプト実行のモニタ

PowerShell スクリプトファイルをモニタするには、このオプションを選択します。このチェックボックスが選択されていないと、管理リストに PowerShell スクリプトファイルが追加されてもモニタされません。

Anti-Executable のステルス機能

ステルスモードは、システム上の Anti-Executable の存在を視覚的に示すアイコンなどを管理する複数のオプションです。ステルスモードでは、管理者は、Windows のシステムトレイで Anti-Executable のアイコンを非表示にしたり、アラートが表示されないようにするオプションを利用できます。

Anti-Executable がシステムトレイに表示されていない場合、管理者と信頼ユーザーは、Ctrl+Alt+Shift+F10 ホットキーを使って Anti-Executable を起動できます。

ステルス機能には以下のオプションがあります。

- 通知を表示しない - アラートが表示されないようにします。
- システムトレイのアイコンを表示しない - システムトレイの Anti-Executable アイコンを非表示にします。

互換性オプション

Anti-Executable は Deep Freeze と互換性があります。

Deep Freeze 互換性



この機能は、コンピュータに Deep Freeze と Anti-Executable がインストールされているときにのみ有効になります。

Deep Freeze の互換性機能により、管理者は Deep Freeze と Anti-Executable の Maintenance Mode を同期させることができます。



[Deep Freeze 互換性の有効化] チェックボックスを有効にすることで、Deep Freeze が Maintenance Mode になると (Deep Freeze は、Maintenance Mode のときに Thawed で再起動します)、Anti-Executable も自動的に Maintenance Mode になります。

Deep-Freeze と Anti-Executable が同時に Maintenance Mode になるように設定することで、コンピュータに追加された実行可能ファイルは、実行管理リストに追加されるだけでなく、Maintenance Mode の終了後にコンピュータが保護されると、Deep Freeze によって保持されます。

Anti-Executable では、Deep Freeze の Maintenance Mode が終了する少し前まで Maintenance Mode が続きます。Anti-Executable の Maintenance Mode が終了すると、実行管理リストに新しい実行可能ファイルまたは更新された実行可能ファイルが追加されます。Deep Freeze の Maintenance Mode が終了すると、更新された実行管理リストで Frozen になっているコンピュータが再起動します。



Deep Freeze 互換性が有効になっており、Deep Freeze が Frozen になっている場合、Anti-Executable を Maintenance Mode に設定することはできません。これはコンピュータに加えられた変更が再起動によって失われるためです。

Anti-Executable が無効になっているときに、Deep Freeze が Maintenance Mode になると、Anti-Executable は無効の状態が続きます。

Deep Freeze によって開始する Maintenance 期間は、Anti-Executable で設定されているその他の Maintenance 期間よりも優先します。

Deep Freeze の詳細は、<http://www.faronics.com/deepfreeze> をご覧ください。

アラートのカスタマイズ

Anti-Executable 管理者は、[アラート] ペインを使って、ユーザーが実行禁止ファイルを実行しようとしたときに表示されるメッセージと画像を指定することができます。以下のメッセージを設定できます。

- 実行管理リスト違反のメッセージ:
- ブロックされた通知メッセージ:

メッセージを入力するか、デフォルトのメッセージを使用します。ユーザーが実行禁止ファイルを実行しようとする、このテキストがすべてのアラートダイアログに表示されます。

[変更] をクリックして、ファイルを参照し、ビットマップ画像を選択します。選択した画像はアラートダイアログのテキストとともに表示されます。アラートメッセージには、以下の情報が表示されます。

- 実行可能ファイルの場所
- 実行可能ファイル名
- デフォルトまたはカスタマイズされたイメージ
- デフォルトまたはカスタマイズされたメッセージ



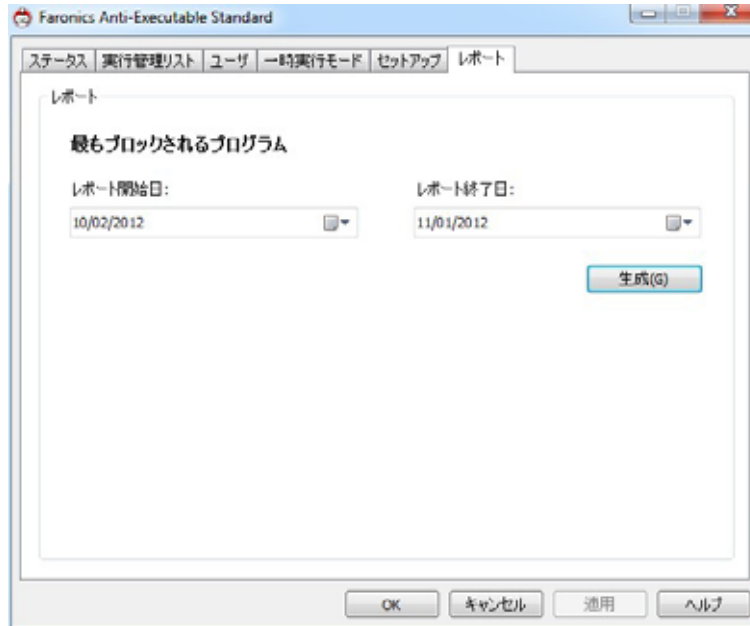
以下はアラートダイアログの例です。





レポートタブ

[レポート] タブにより、選択した期間に関する ϕ 最もブロックされるプログラム ε のレポートを作成できます。



レポートを作成するには、次の手順を実行します。

1. [レポート] タブをクリックします。
2. [レポート開始日] に日付を選択します。
3. [レポート終了日] に日付を選択します。
4. [生成] をクリックします。

ブラウザが開き、レポートが表示されます。



Anti-Executable のアンインストール

トピック

[Anti-Executable Standard のアンインストール](#)



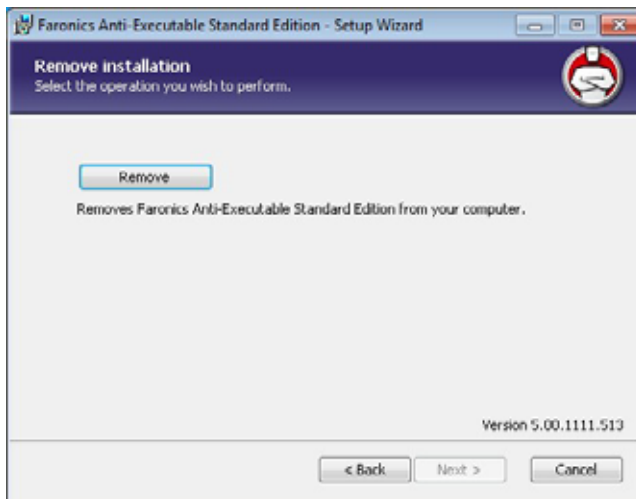
Anti-Executable Standard のアンインストール

Anti-Executable の削除は、.msi ファイルをダブルクリックして行えます。セットアップウィザードが表示されます。

1. [次へ] をクリックして、アンインストールを開始します。

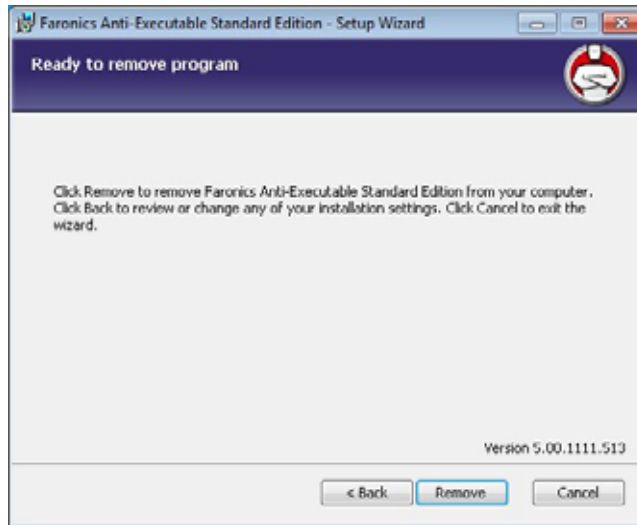


2. [削除] をクリックします。





3. [削除] をクリックします。



4. [完了] をクリックします。

